



Careoth People Stories

CAREOTH PICKS

VOL
29
2026

24時間365日対応！ 安心な在宅生活を実現

～「いつでもサポート訪問介護看護(定期巡回随時対応型訪問介護)」とは～

「ゆうゆう」が提供する「いつでもサポート訪問介護看護」は、短時間の定期訪問に随時訪問や訪問看護を組み合わせて、一人ひとりの在宅生活を支えるサービスです。「ゆうゆう手城」と「ゆうゆう高木」の2施設で対応。今回は、ゆうゆう手城の看護職員・山下拓人さんに、仕事への思いや日々の取り組みを伺いました。



正看護師の資格を活かし、必要書類を作成する山下さん

「いつでもサポート訪問介護看護」は、どのようなサービスですか？

独居は難しくても、施設に入らず住み慣れた自宅で暮らしたい方を支えるサービスです。買い物代行や服薬管理、ご家族が訪問できない時間帯の安否確認など、決まった曜日・時間に訪問し、利用者さんの状況に応じた介助・援助を行います。24時間365日対応し、緊急時や相談時はケアコールでオペレーターと通話でき、必要に応じて夜間も駆けつけます。

対象となるのは？

要介護以上で、一人で生活するのが難しい方です。居住エリアは、「ゆうゆう手城」から往復30分以内が目安。「ゆうゆう手城」では、現在、20人ほどが利用されています。

利用者やご家族からはどんな声がありますか？

ご家族からは「サービスを利用するようになり、起きている時間が増えたのがうれしい」と言っていたたり、会社のLINEで情報を共有していることに対して「細かい情報まで伝わるので助かる。対応が丁寧」とのお言葉をいただいたりしています。



利用者の状況は口頭と資料で、正確かつ迅速に共有

山下さんの仕事について教えてください。

総合病院での勤務を経て、医療と介護の両方に携わりたいと2024年1月にキャレオスへ入社。同年5月、「いつでもサポート訪問介護看護」の開始に合わせて、ゆうゆう手城に配属されました。正看護師の資格を活かし、血圧測定や服薬管理を行いながら、利用者さんの在宅生活や併設する高齢者向け住宅の入居者を支えています。



サービス付き高齢者向け住宅入居者の歩行訓練のようす

心に残っているエピソードがあれば教えてください。

ご夫婦でサービス付き高齢者向け住宅に入居されましたが、ご主人が病気になり、看取りの段階に。奥様が「側にいたい」と最後まで寄り添い一緒に過ごされている姿を見た時は、それを支援することができてよかったと思いました。

今後の目標は？

看護師として知識を深め、利用者さんの言動や行動を理解し、より適切な対応ができるようになることが目標です。認知症の方も多いため、認知症ケア専門士の資格取得にも挑戦したいです。入社当時、気分が沈んでいた私を上司や同僚が温かく支えてくれました。これからは、入社する後輩にも同じ温かさで寄り添っていききたいです。

「ゆうゆう手城」の今後の展望は？

いつでもサポート訪問介護看護の対象エリアを広げていき、利用者さんの数を増やしていきたいです。





Careoth People Stories

VOL
30
2026

CAREOTH PICKS

一人ひとりの「一歩」に寄り添う

リッツで支援に向き合う3人にお話を伺いました



座談会にご参加いただいた皆さん

まずは、皆さんが現在どのような仕事を担当されているのか教えてください。

榎本さん 私はサービス管理責任者として、一人ひとりの個別支援計画を作成しています。また、職員が働きやすく、利用者さんが安心して訓練や就職に向けた活動に取り組める環境づくりも大切な仕事です。より適切な支援計画を作るには現場を知ることが欠かせないと考え、私自身も利用者さんと直接関わるようにしています。

北川さん 私は就労移行支援の職業指導員としてビジネスマナーやメンタル面の学習、仕分けなどの作業訓練を行っています。私たちが目指すのは、単に就職することではありません。就職した先で困難に直面しても乗り越え、長く働き続ける力を身につけていただければ、さまざまな角度から支援しています。

三谷さん 私は自立訓練を担当し、一人で生活するために必要な力を身につけるトレーニングを行っています。利用者さんの多くは、すぐに就職を目指すのではなく、まず生活の土台を整えることが必要な方です。そのため、自立訓練を就労移行支援へ進む前の準備期間と捉え、一人ひとりに合ったプログラムを考えています。

皆さんが利用者さんと関わるうえで大切にしていることなんでしょう。

榎本さん 私は、利用者さんにとって「何でも話せる存在」でありたいと思っています。「榎本さんなら安心して相談できる」と感じてもらえるよう、普段から話しかけやすい雰囲気をつくり、相手の言葉に丁寧に耳を傾けることを大切にしています。悩みや不安を一人で抱え込まず、気軽に話してもらえる関係を築きたいです。

三谷さん 利用者さんは、何気ない一言で自信を失うことがあります。だからこそ、「できなくても、知らなくても大丈夫」という姿勢で接することを大切にしています。それぞれが歩んできた背景や経験を尊重し、一般的な物差しで判断せず、安心して一歩ずつ学べるよう寄り添っています。

北川さん まずは相手の言動を否定せず、受け止めることを大切にしています。一見すると良くない行動に見えても、ご本人なりの理由があります。物を乱暴に扱った時も、すぐに注意するのはなく、「なぜそうしたのか」を一緒に考えます。行動だけで判断せず、その背景や気持ちを理解することが支援の第一歩だと思います。さまざまな角度から支援しています。

皆さんが利用者さんと関わる中で、成長や変化を感じてうれしかった出来事がありますか。

北川さん 今は、小さな変化が何よりうれしいですね。利用当初は、ほとんど話せなかった方が、少しずつ会話や笑顔を見せてくださるようになる。そんな日々の成長を間近で感じられることが、一番の喜びです。

榎本さん 高校時代に学校へ通えなかった方が、今では毎日通できるようなするなど、利用者さんの成長に驚かされることがあります。その姿を見ると、「環境によって人は変わる」と実感します。以前担当していた方が新しい環境

でも少しずつ前へ進み、成長されている姿を見守れることも、この仕事ならではの喜びです。

利用者さんを支援する一方で、この仕事を通して皆さん自身が学んだり、成長したりすることもありますか。

三谷さん 成長したことといえば、体重が少し増えました(笑)。それはさておき、利用者さんが増え、さまざまな特性や課題を持つ方と関わるようになりました。個別支援計画を読みながら二人ひとりへの理解を深める中で、より良い支援にはさらに知識が必要だと感じ、以前にも増して学ぶ意識が強くなりました。

榎本さん 利用者さん向けに、ストレスとの向き合い方やメンタルヘルスのプログラムを行うため、私自身も学びを深めています。コーピングなどを学ぶ中で、気持ちの切り替えが十分ではなかったと気づくこともあります。利用者さんに伝えるために学んだことが、そのまま自身の成長にもつながっています。

北川さん 以前は塾講師として一人で仕事を進めることが多かったのですが、ここではチームで支援する大切さを学びました。職員によって考え方や視点が異なり、意見がぶつかることもありますが、相手の考えを尊重しながら、自分の意見もしっかりと伝えられるようになったことに、この一年での成長を感じています。安心して一歩ずつ学べるよう寄り添っています。

最後に利用者さん一人ひとりを支えていくために、これから取り組んでいきたいことはありますか？

三谷さん 利用者さんを増やし、定員20人に近づけることが目標です。日々の支援を丁寧に行い、満足度を高め、口コミや紹介につなげたいです。相談員さんや保護者の方との関係も大切にしていきたいです。

北川さん 利用者さんが自分自身を理解し、自分に合った職場で働けるよう支援していきたいです。どのような環境なら無理なく働き続けられるのかを一緒に考え、その人らしい就労につなげていきます。

榎本さん 利用者さんだけでなく、職員も笑顔で楽しく働けるチームをつくるのが目標です。私自身も学び続け二人ひとりの声にしっかりと耳を傾けながら、働きがいを感じられる職場を目指します。

CAREOTH PICKS

【児童発達支援 夢門塾相生】苦手が「できた!」に変わる瞬間。

手作りの療育グッズが引き出す、一人ひとりの「できた」

✿ 5つの療育グッズ

子どもの発達や特性に合わせた支援を行う児童発達支援事業所。その現場では、どのような工夫が行われているのでしょうか。今回は「児童発達支援 夢門塾相生」を取材し、個々に合わせた療育グッズという切り口から、子ども一人ひとりの成長に合わせた支援の工夫についてお話を聞きました。

夢門塾相生では、机上課題から運動まで、子どもの困り感や発達段階に合わせたグッズを活用しています。現場で使われている5つを教えてくださいました。①話の流れや順番を整理する「順序カード」バラバラにしたカードを正しい順番に並べ替えたり、あえて間違えた順番を修正してもらったり。動作の順序を理解できているか、言葉



机上課題から運動まで。子どもの困り感や発達段階に合わせた手作りの療育グッズ

✿ 一人の「困り感」から生まれ、みんなの支援へ



トングでポンポンをつまみ、台紙と同じ色へ移動します



白黒カードを対応する色の上に分類する「これは何色」

で説明できるかを確認しながら進めます。②手先と視覚の連動を育む「ポンポン」トングや補助箸など発達段階に合わせた道具で、台紙と同じ色にポンポンを移動。台紙と手元を見比べながら作業することで、目と手の協調運動の練習にもつながります。③両手を器用に使う感覚をつかむ「右手左手」並んだマークを左右の手で同時にタッチ。同じ色を同じタイミングで触れるよう促し、左右の手元をよく見る練習を行います。発達に合わせた右手のマークを小さくしていきます。④楽しみながら概念を広げる「これは何色」白黒のイラストカードを、対応する色の紙の上に分類。他にどんな色を知っている?と日常会話へ展開することで、認識できる概念を広げていきます。⑤恐怖心を減らして段階を踏める「手作り跳び箱(小)」カラルな見た目とコンパクトなサイズで恐怖心を軽減。「またぐ」上に座る→跳んで座る→跳び越える」とスモールステップで進みます。複数並べ、意欲が続く工夫も。



フェルトのボタン

グッズを取り入れる目的は、一人ひとりの発達や興味に合わせた活動内容を柔軟に調整するため。選定にあたっては、いま利用している子どもたちの姿に当てはめて考えることが多く、一人の困り感に合わせて作った道具が、似た悩みを持つ他の子の支援に役立つことも少なくありません。「使い方は一つではない」と考え、個々に合わせて応用できる物を選んでいきます。

✿ あえて見守る。

「問いかけ」から広がる発想力

グッズを導入する際は使い方を伝えてから始めますが、時にはあえて「これ、どうやって使うと思う?」と問いかけ、子ども自身に考えてもらうことも。子どもならではの自由な発想や思いがけない使い方が生まれ、スタッフもそのアイデアを大切に受け止めながら、一緒に楽しむことを意識していきます。



「これ、どうやって使う?」の問いかけから、自由な発想が広がります

✿ 道具と言葉がけで芽生える、子どもたちの成長

印象的だったのは、お箸への苦手意識が強い子が、集中してポンポンを5つ入れられたときのこと。「5個も入れられたね!」という職員の一言でさらに自信がついたのか、その後も集中を切らさずに取り組み続ける姿が見られました。最初は大きくしがちぎれなかつた紙を細かくちぎれるようになり、嬉しそうに職員の顔を見つめてくれた子も。道具を使うだけでなく、達成感を味わえる言葉がけを組み合わせることが、成長や変化につながっています。



「できた!」の達成感が、次への意欲につながります

保護者へのフィードバック時に実際のグッズを見せると「どうやって作るの?」「家でもやってみたい」と興味を持たれ子どもと一緒に楽しんでいるという声も届きます。「一人ひとりの個性や可能性を大切に、できた!」「やってみたい」という気持ちを育む療育を、これからも続けていきます。





Careoth People Stories

VOL
32
2026

CAREOTH PICKS

放課後等デイサービスで活躍 専門知識と国際感覚を兼ね備えた グローバルトレーナー

インドネシアから来日した2人のグローバルトレーナーに聞きました

インドネシアで日本語学校や職業訓練校などの教育事業を展開し、社内でも多数のインドネシア人スタッフが活躍するキャレオス。今回は「グローバルトレーナー」として放課後等デイサービス「夢門塾ゆうゆう高木」で働く2人にインタビューしました。



ブロック遊びにも一緒に参加。言葉が違って自然と距離が縮まります



子どもたちにインドネシア語を紹介する場面も。室内運動の時間。子どものそばに寄り添い、動きを一緒に確認します「TIGA」は数字の3



先輩スタッフから

入社後すぐに即戦力になってくれました。特別な指示を出さなくても、困っている子がいたら声をかけてくれる、気配りのできる方です。「息子がデヴァ先生の話しが面白い」と話してくださる保護者の方が何名もいらっしゃるほど、子どもたちの人気者。今後も仕事の幅を広げ、子どもたちのヘルプを受け止められる先生になってほしいです。

— これからの目標を教えてください。 —
日本語を勉強して、子どもたちとも先生たちとも、もっとスムーズにコミュニケーションが取れるようにしたいです。歴史や政治にも興味があるので、いつか日本の大学にも通えたらいいなと思っています。

— 配属先ではどんな業務を任されていますか？ —
子どもたちの記録表「実績」を準備する担当です。おやつ準備や教室の掃除もします。日本語はまだ勉強中で、子どもとのコミュニケーションが難しいこともありますが先生たちがとても親切にしてくれてホームシックもありません。子どもたちの笑顔を見ることが何よりうれしいです。

— なぜ日本で働きたいと思ったのですか？ —
インドネシアの大学で教育について学び、子どもが好きなので子どもに関わる仕事がしたいと考えていました。友人からフジアカデミーのことを聞き、介護と日本語を2ヶ月ほど勉強してから来日しました。インドネシアには障がいのある子どもたちのための教育プログラムがほとんどないので、日本で経験を積み、いつか母国でも役に立つと思いました。

困っている子をそっと支える
子どもたちの人気者



夢門塾ゆうゆう高木
イ・ワヤン・デヴァ・
アディティヤさん
2026年4月来日



夢門塾ゆうゆう高木のみなさんと

先輩スタッフから

明るい性格で、初日から子どもたちの中に自然と溶け込んでいました。日本語のレベルも高く、即戦力として頑張ってくれています。子どもたちはアグネス先生が来るのを待ちかまえてインドネシア語のあいさつを教えてもらい、反対に日本語を教える。とても良い交流が生まれています。ゆくゆくはインドネシアの障がいを持つ子どもたちの支援に携わるお仕事に就いてもらえたら嬉しいです。

— これからの目標を教えてください。 —
休みの日も毎日、日本語の勉強をしています。今は日本語能力試験のN3を持っていますが、次はN2、そしてN1も目指しています。できるだけ長く日本にいたいので、まずは日本語のレベルアップが目標です。

— 配属先ではどんな業務を任されていますか？ —
宿題を手伝ったり、一緒に遊んだり、運動をしたり。最初は子どもたちとのコミュニケーションに緊張しましたが、先生たちが優しく教えてくれて今は慣れてきました。子どもたちが名前を覚えて話しかけてくれるのがうれしいです。新しい言葉や日本の文化をたくさん教えてもらっています。

— なぜ日本で働きたいと思ったのですか？ —
インドネシアの大学で日本語教育学科を卒業し、インターシップで神戸のゴルフ場で1年間働いたこともあります。子どもの頃から漫画とアニメが大好きで、日本が大好きです。大学の先生からフジアカデミーを紹介してもらい、子どもが大好きなのでこの仕事を選びました。私の弟にも障がいがあり、弟の気持ちが分かるので、ここに来ました。

明るさと笑顔が魅力の
ポジティブガール



夢門塾ゆうゆう高木
アグネス・
アリサンディさん
2026年4月来日



先輩スタッフのみなさんと。
明るい笑顔で職場を和ませています